Title:道へき・複連　130号.ec6 Page:1 Date: 2007/11/20 Tue 16:41:07

道へき・複連
道へき・複連情報

発行者
北海道へき地・複式教育研究連盟
www.hamanasu.com/dohekiren
委員長　梅木登喜雄
編集責任者　油谷諭
印刷所　土田工房
勇払郡安平町早来栄町19 Tel(0145)22-2023
題字　書家　濱谷彩鶴（はまや・さいかく）氏

第56回全道へき地複式教育研究大会空知大会特集号

実践研究の発信の場を通し、多彩な学びから、新たな展望を拓く！

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長　**梅　木　登喜雄**

「緑の大地に生きる空知の子らに豊かな心と確かな力を」の大会スローガンのもと、第56回全道へき地複式教育研究大会空知大会が全道各地より多くの参加者を得て盛会に終了できました。このことを全道の会員の皆様と共に喜びたいと思います。

空知大会は、管内25市町のへき地、複式校が、それぞれのもつ学校課題の解明の中から生まれた、多くの実践を全道に発信できた大会でありました。また次年度に統廃合を控えた学校もあるなど、組織的にも多くの難題を抱えての開催でもありましたので実行委員会の皆さんのご苦労には頭が下がる思いであります。

さて、教育改革が加速度を増して進む中、小規模、複式学級を有する学校は新たな課題を持ちながら、日々の実践に汗している状況であります。教員免許更新に関わる課題、学習指導要領の改訂に伴い生じる新たな教育課程の課題、へき地学校等の指定基準の改正、そしてそれに伴う指定の見直し等々、今後予想される課題が山積しています。人とお金がついてこない改革は、現場にとって大変な苦労であります。

先日、山形大会、奈良大会と全へき連の大会に参加しました。拝見した複式の実践発表は、大半が変則複式学級での学習指導の充実に関するものでありました。このことは単式の学校が遭遇する複式学級編制に変則が多いことを意味しています。複式指導のノウハウもなく、指導者も複式未経験という中での取り組みは極めて困難を伴っています。へき地加配のある学校が増えている本州ですら地域よって大きな差を生じています。過去には複式など考えたことのない学校も、今は状況を一変させて新たな課題に取り組んでいる現実であります。統廃合だけでは解決できない状況もまた日本のへき地教育が抱える現実であります。

そう考えると各都道府県にはその地域にあった研究体制が組織され、実践研究を発信できる場と共有できる仲間が必要なのであります。今後も多くの実践を通して、多彩な学びを全道の仲間の皆さんと共有していきたいと思います。

結びに、本空知大会の開催に際し、北海道教育委員会をはじめ多くの関係機関、各団体のご支援をいただきましたことに心より感謝申し上げます。有難うございました。